

基礎看護技術論

必 修

開講年次：1年次後期

科目区分：演 習

単 位：2単位

講義時間：60 時間

■科目のねらい：対人関係の基本を学ぶとともに、看護行為に共通な援助技術、日常生活の行動を促進する技術、生命活動を支える技術、治療、処置に伴う援助技術などの導入として、看護の基本となる実践的援助技術を主体的に学ぶ。

■到達目標：①基礎看護技術の原則と根柢を明確にし、技術を修得する。

②学修した看護技術項目を、一人であるいは指導を受けながら安全に安楽に実践する。

③自主的に演習課題に取り組み、技術修得に向けた学修参加をする。

■担当教員：【◎は科目責任者】

◎田中 広美・樋之津 淳子・大野 夏代・古都 昌子・矢野 祐美子・小田嶋 裕輝・檜山 明子

■授業計画・内容：

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 第 1 回 | コースオリエンテーション、看護技術、安全と安楽 |
| 第2~4回 | 移動の援助技術 体位変換、移動、移送 |
| 第5~6回 | 食事の援助技術 食事介助、口腔ケア |
| 第7~8回 | 排泄の援助技術：①便器・尿器介助、おむつ交換 |
| 第9~11回 | 清潔の援助技術：①洗髪、②寝衣交換 |
| 第12~13回 | 清潔の援助技術：③足浴
安楽促進の技術：罨法・マッサージ |
| 第14回 | 対象への援助の実際 |
| 第15~17回 | 清潔の援助技術：④全身清拭、⑤陰部洗浄 |
| 第18~19回 | 感染予防：手洗い、ガウン等の装着、滅菌物の扱い |
| 第20~22回 | 排泄の援助技術：②浣腸、③導尿 |
| 第23~24回 | 薬物療法の援助技術：①与薬の援助 管理と準備、経口与薬ほか |
| 第25~27回 | 薬物療法の援助技術：②注射法（皮下注射、筋肉内注射） |
| 第28~30回 | 検体採取法の援助技術：採血・採尿 |

■教科書：茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[2] 基礎看護技術I 第16版、医学書院、2015.
茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学[3] 基礎看護技術II 第16版、医学書院、2013.

■参考文献：講義の中で提示します

■成績評価基準と方法：筆記試験、実技試験、事前課題、事後課題を総合的に評価します。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
筆記試験	◎				
実技試験	◎	◎	◎		80
事前課題	○				20
事後課題					
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎より重視する ○重視する

■関連科目：

■その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）：学修形態は、事前課題を踏まえ、講義をうけることで必要な知識の習得をめざします。技術演習は、主体的に積極的な参加態度を求めます。援助にふさわしい言葉遣いや身だしなみを整えることも演習を通して学んでいきましょう。「基礎看護学臨地実習II」を履修するためには、本科目の単位を修得していることが望ましいです。内容に変更があった場合は、第1回目で提示します。